

事業評価シート（平成26年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	保全樹等指定事業		
事業担当	都市整備部 みどり公園・水辺課		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	自然との共生 四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'01	1 自然を守るしくみづくりを進める	
根拠法令等	緑化の推進及び緑の保全に関する条例		
対象・受益者	対象樹木管理者	事業期間	
委託・協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働:		
	目的・目標		事業の概要
	良好な樹木・樹林・生垣が保全されています。		保全樹等を指定し、適正な維持管理を支援します。

2. 事業の検証

活動指標	指標名	保全樹木調査(平成25年度から)			単位	箇所
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標		6	6	6	
	実績	6	6			
活動指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
成果指標	指標名	保全樹木の本数			単位	本
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	60	61	62	63	
	実績	47	46	46		
成果指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
進捗状況		: 予定どおり				
	遅れている理由					
平成26年度の主な取組と成果						
市内の私有地に残された貴重な樹木等を保存するため、良好な樹木(46本)・樹林(8か所)・生垣(5か所)に対して奨励金を交付しました。また、枯損及び倒木を防ぐための処置や、第三者に対して損害を与える可能性がある等の危険性がある樹木に対して、樹木医の診断により、樹勢回復の施術や危険回避の措置を行い、良好な樹木・樹林・生垣を保存しました。						
平成26年度の検証結果	B : おおむね成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	緑豊かなまちづくりの実現のためには、良好な樹木(46本)・樹林(8か所)・生垣(4か所)を保全していくことが必要です。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	保全樹等の多くは老木・古木であり、近年の厳しい環境変化により樹勢が衰える傾向にあるため、継続して状態を把握し、保全対策を行うことが効果的と考えられます。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	樹木等を良好な状態に保つために、所有者自身の管理はもとより、行政としても樹木医等の専門的知識を活用した補助と支援が必要です。	高中低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	保全樹等の多くが老木・古木であり、年々樹勢が衰えるものもありますが、樹木医等を活用して、貴重な樹木等の保全に努める必要があります。	高中低
今後に向けた課題の分析 保全樹等の多くが老木・古木であるため、樹木医等を活用した計画的な生育状況の調査と、良好な状態に保つための施策が必要です。また、万が一の倒木等への対応も必要です。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		保全樹木の新規指定、 奨励交付金の支出、樹 木医による診断等	保全樹木の新規指定、 奨励交付金の支出、樹 木医による診断等	保全樹木の新規指定、 奨励交付金の支出、樹 木医による診断等	保全樹木の新規指定、 奨励交付金の支出、樹 木医による診断等
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	1,404	1,370	860	1,830
	一般財源	0	0	0	0
事業費 (A)		1,404	1,370	860	1,830
執行率 (%)		73.74	75.15	46.89	

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成28年度の取組方針 保全樹等を指定し補助するだけでなく、保全樹等を長く良好な樹木として保存するために、個々の状態を的確に把握し、樹木医を活用した保全を計画的に進めます。
課長コメント 市内に残された良好な樹木等を保存するために、樹木医を活用して積極的に保全を進めていきます。